

小6国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読み書き 85.0%

ねらい：漢字の読み・書きがしっかりと答えられるかを問う。

分析と対策：漢字を勉強するときは、読みはできるけれど書きはあやふやというにならないように注意しましょう。一つの漢字に対して、音読み・訓読みだけでなく、部首や書き順、総画数も確認しましょう。

2 ことばのきまり、熟語 83.8%

ねらい：文の書きかえ、強調語、呼応の副詞、文の組み立て、二字熟語の成り立ちについて理解を問う。

分析と対策：(1)は主語が変わった場合の文に注意して書き直します。「母が」を主語にする場合、母が「誰を」起こしたのかを考えます。書き直した文は一度読んで、意味が通るかを確認します。(2)は正しい文になるように考えます。(3)は呼応の副詞の問題です。(4)は修飾語の問題です。「黄色い」がどの言葉につながるのかを考えて答えましょう。(5)の二字熟語の成り立ちは、漢字自体の意味を知っておく必要があります。熟語を分解して、どのような意味になるのかを考えます。

3 物語の読み取り 63.1%

ねらい：登場人物が何について話しているのかを理解し、内容を読み取る。

分析と対策：「ぼく」は、カブトやクワガタなどのお金になる幼虫を、森から大量に持ち帰る人がいるということを知り、

そういった侵入者にはワナをしかけてケガをさせればいと所くんに言いました。しかし、それを聞いた所くんは「心ない人がやること」だと「ぼく」を叱しかりました。さらに「人災」について物語は展開されていきます。(1)は「ぼく」がどのような話を聞いたのかを読み取ります。(2)(3)(5)は指示語を補って記述する問題です。(4)は「ぼく」の気持ちをつかんで記述する問題です。(6)は文章全体から、「ぼく」と所くんの人物像がわかる部分をとらえてどれがふさわしいかを考えましょう。

4 随筆の読み取り 56.1%

ねらい：話題をつかみ、文章の展開を把握する。

分析と対策：「私」が子供のころに使っていた「おみそ」という言葉についての随筆です。また、大人になった「私」自身が「おみそ」になったことから、「私」が考える「おみそ」の本質も読み解いていきます。(1)は「おみそ」はどういった意味かを読み取ります。(2)は同じ話題がどこまで続いているかを読み取る問題です。(3)は接続語を問う問題です。前後の内容から、正しいものを選びましょう。(5)は「私」の現在の「小説家」という仕事と、「おみそ」の本質について読み取って答えます。(6)は文章全体を理解して答えます。どこに何が述べられているのかを把握して、選択肢に合う部分と合わない部分を見分けましょう。

全体の平均点は 69.6点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。